

パワーアップ研修報告

英語科 上畑 浩二

1 研究主題

英語教科指導におけるスピーキングの指導と評価（パフォーマンステスト）のあり方

2 研究のねらい

多くの生徒が英語を用いて自己表現をしたいと考えてはいるが、物事に意欲的に取り組もうとする者がいる一方で、英語そのものを苦手と感じている者も多い。そのため、自分自身で考えたり、考えた内容を他者と話し合ったりすることが難しい。この状況を踏まえ、スモールステップを踏みながら、達成感を味わいながら、表現力が向上するような取り組みをしていきたいと考えた。

3 研究経過

今回のパワーアップ研修を通して、①英語の教科指導におけるスピーキングの指導と評価のあり方、②パフォーマンステストに関する知識や指導法、の2点について、指導方法を改善し指導力の向上を図り、生徒の表現力の向上を目指そうと考えた。

(1) Classroom English の活用

授業内で、Classroom English をできるだけ使い、英語に触れる機会を増やした。

また、ALT との Team Teaching においては、ALT が話す英語を単に訳すのではなく、言い換えをしてもらったり、何度も聞く機会を作ったりした。

(2) 校内パフォーマンステストの実施

各学期2回の校内パフォーマンステストを実施。

内容：ALT との会話、音読テスト、自作英文の発表（音読）、など。

評価：学期末成績処理に組み込む（従来の平常点にあたるものとして運用）。

(3) 『学びの基礎診断』・英語スピーキングテストの実施

年2回、パソコンとヘッドフォンを用いた英語スピーキングテストを実施（進路指導部）、事後復習も行った。

(4) 研究授業①（令和元年5月9日）

教材 “All Aboard! English Communication I”（東京書籍）

Lesson 6 “A Funny Picture from the Edo Period”

歌川国芳の浮世絵について、好きか嫌いか、その理由も含め短い英文を書き、グループ内で発表（ライティング・スピーキング）。

(5) 研究授業②（令和元年 11 月 21 日）

教材 “All Aboard! English Communication I”（東京書籍）

Lesson 9 “Pigs from across the Sea”

第二次世界大戦において、沖縄では地上戦が起こり、多くの人命・家畜が奪われた。沖縄の人々の飢えを救った沖縄出身のハワイ在住日系アメリカ人に、英語で手紙を書き、発表（ライティング・スピーキング）。

(6) 研究授業③（令和 2 年 1 月 27 日）

教材 “All Aboard! English Communication I”（東京書籍）

Lesson 10 “I Am Malala”

最年少のノーベル平和賞受賞者であるマララ・ユスフザイが、自らの信念のために襲撃されながらも、回復後に国連本部で「すべての子どもに教育を受ける権利の実現を」と演説を行った。生徒一人ひとりに教育の重要性を感じ、自分がどうありたいか、どのように社会に貢献したいかについて英文を書き、発表（ライティング・スピーキング）。

※ 考査までの残り授業数の関係で、研究授業では、文法（比較）の表現活動（原級・比較級・最上級を用い、身の周りのことを表現する）を行った。

4 研究のまとめ

(1) 生徒の変容

英語そのものへの苦手意識はまだまだあるが、大多数の生徒が、自己表現活動に対する抵抗が減り、少しでも自分の思いを伝えようと積極的に取り組むようになった。また、定期考査においても、範囲に指定された単語を学習したり、授業中に質問をしたりすることも多くなった。

今後は、自分自身で考え、調べ、考えた内容を他者と話し合い、相互評価できるような取り組みをさらに工夫していきたい。

(2) 今後の展望

授業内のみならず、各種考査（特に、『学びの基礎診断テスト』）や外部検定試験（実用英検・全商英検）も活用していきたい。

5 参考文献等

(1) 上山晋平

『はじめてでもすぐ実践できる！ 中学・高校 英語スピーキング指導』（学陽書房）

(2) 佐藤一嘉 編著『授業をグリーンと楽しくする英語教材シリーズ 31』

ワーク&評価表ですぐに使える！

英語授業を変えるパフォーマンス・テスト 中学 2 年』（明治図書）

(3) 佐藤一嘉 編著『授業をグリーンと楽しくする英語教材シリーズ 32』

ワーク&評価表ですぐに使える！

英語授業を変えるパフォーマンス・テスト 中学 3 年』（明治図書）